

Newsletter

A JOURNAL REPORTING PROGRESS OF RITSUMEIKAN ASIA PACIFIC UNIVERSITY

西暦2000年4月開学予定

vol.1

December 1997

創刊号

CONTENTS

- p2 — わたしたちのめざすもの
～立命館アジア太平洋大学の構想
- p4 — 立命館アジア太平洋大学の理念と
構想をアジアと世界の若者に伝えたい
- p5 — Ritsumeikan APU Topics
- p6 — Ritsumeikan Topics
- p7 — 世界のアドバイザー・コミッティ
- p8 — 世界18カ国46大学・研究機関と結ぶ
立命館国際学術ネットワーク

アジア太平洋地域の若者が国境を越えて、共に学ぶ場 ——それが立命館アジア太平洋大学です

学校法人立命館が運営している立命館大学は、西暦1900年に設立された、日本を代表する総合私立大学の一つです。現在、京都市と滋賀県草津市の2つのキャンパスに分かれ、8学部で約30000人の学生が学んでいます。

この長い歴史を誇る学校法人立命館が、21世紀に向けての創立100周年を記念する新しい大事業として、西暦2000年に、日本の九州・大分県別府市に、新しい国際大学、立命館アジア太平洋大学を設立いたします。

この新大学の目的は、世界の、とくにアジア太平洋地域の、さまざまな国、地域の若者が国境を越えて一つのキャンパスに集い、ともに学び、ともに鍛え合う場を用意しようとするものです。

いま地球社会は、情報技術の革新や企業活動の急速な国際化を背景として、大規模なボーダーレスの時代に入りつつあり、人間のさまざまな活動が、国境を越え、また文化の違いを克服しながら、活発に展開されています。

このような新しい時代に、もっとも必要とされているのは、アジア太平洋地域や世界の多様性を理解し、グローバルな視野で考え、積極的に行動できる人材です。

来るべき21世紀の地球社会の持続的な発展を図り、人々の平和な共生を実現していくためには、このような新しいタイプのリーダーが強く求められています。

私たちが設立する立命館アジア太平洋大学は、このような、活力と創造性に富んだ人材を、私たちが住むアジア太平洋地域を拠点として養成し、世界に送りだすことをめざしています。

21世紀の地球社会の時代に大いなる活躍を夢見るアジア太平洋地域及び世界の若者のみなさん、立命館アジア太平洋大学は、みなさんを待っています。



学校法人立命館副総長
立命館アジア太平洋大学学長予定者

坂本 和 一

立 命 館 ア ジ ア 太 平 洋 大 学

アジア・太平洋地域に開かれた「アジア立」大学

私たちは、アジア太平洋地域における多様なネットワークに支えられ、この地域の持続的・平和的發展と共生に貢献する国際的な大学をめざしています。立命館アジア太平洋大学は、アジア太平洋地域を中心とした世界約50カ国・地域からやってくる学生と日本人学生が50%ずつの構成です。また、3分の1以上が日本人以外の教授陣のもとで、密度の高い教育を受けることになります。さらに、入学時期は4月と10月の2回であり、海外から、高校卒業後、すぐに入学できるようにしています。

この大学の教育の第1の特徴は、英語と日本語の二言語による教育を

行うことです。学生は日本語（または英語）の習得を2年以内に果たして、両方の言語でコミュニケーションすることになります。第2の特徴は、国際的な学生構成の特徴を生かして、学生が相互に学び合い、教え合いながら、相互理解を深め、専攻分野の学習を進めていきます。第3の特徴は、学生が学んだ成果を社会に向けて発信していくことを重視していることです。学生は単に学習し、知識を深めるだけでなく、その成果を積極的に学内外で発表していき、社会的評価を得られるようにします。

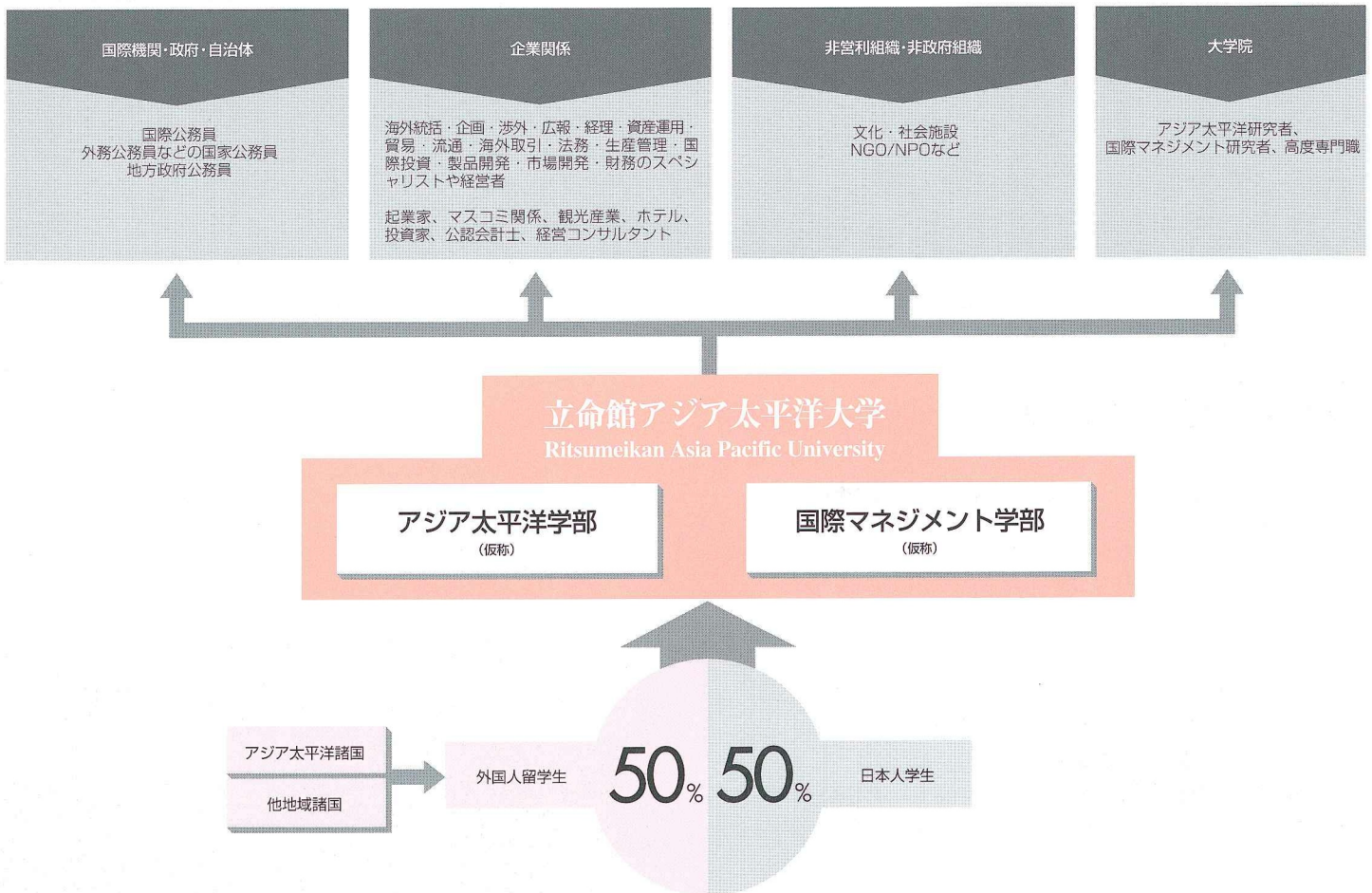
アジア太平洋地域の持続的・平和的發展に貢献する2つの学部

——「アジア太平洋学部」(仮称)と「国際マネジメント学部」(仮称)——

この大学の教育目標は、急速に発展を遂げているアジア太平洋地域のさまざまな分野で活躍できる人材を育成することです。そのためには、アジア太平洋地域の多様性を理解し、相互依存関係と発展のダイナミズムを理解することが必要です。また、コミュニケーションの手段として言語能力を高めることと、情報機器を使いこなす能力が、学習上の基本

的なスキルとして必要です。

こうした地域理解と学習スキルを習得しながら、アジア太平洋学部と国際マネジメント学部の2つの学部で、専門的な分野の学習を進めていきます。それぞれの学部では、次のような教育を行います。



平洋大の構想

多面的で豊かな地域理解を基礎に、新たなネットワークを構築する「アジア太平洋学部」

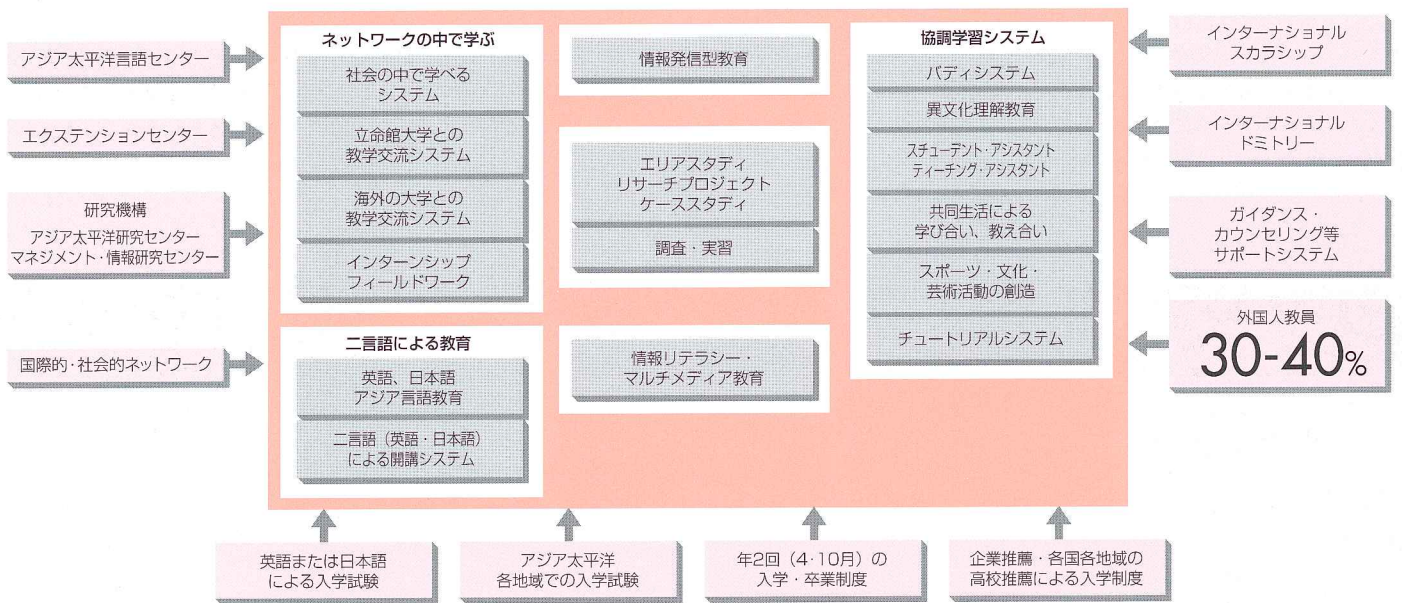
この学部は、アジア太平洋地域社会を理解した上で、その持続的発展を可能にする産業を創造し、発展させる人材を育てます。そのために、まず、社会学、多文化社会論やアジア太平洋地域システム論といったアジア太平洋社会を理解するための科目を1~2回生で学びます。そして、

アジア太平洋と観光、情報・メディア、都市と環境などのプログラムを3~4回生で学びます。この学部では、講義はもちろんのこと、関心のある地域を総合的に研究するエリアスタディと、問題解決を図るプロジェクト演習を重視した学習方法を採用します。

アジア太平洋ビジネスで活躍する担い手を育てる「国際マネジメント学部」

この学部は、アジア太平洋のビジネス社会において、リーダーシップを持って活躍できる人材を育てます。そのために、まず、経営学、経営戦略論、アジア太平洋マネジメント論といったアジア太平洋のビジネス社会の基本的な仕組みを理解するための科目を1~2回生で学びます。そ

して、ファイナンス、生産とロジスティクス、マーケティングなどのプログラムを3~4回生で学びます。この学部では、講義はもちろんのこと、企業の事例を研究するケーススタディと企業での実習を行うインターンシップを重視した学習方法を採用します。



公私協力による世界に開かれたキャンパス

立命館アジア太平洋大学の設置は、九州大分県および別府市の将来ビジョンにもとづく地域からの強い要請に応え、それを先例のない大型公私協力方式によって実現しようとするものです。

九州は歴史的地理的に、アジア太平洋地域の日本の表玄関です。この九州の地にある大分県は、アジア経済・文化圏の新しい拠点づくりに意欲的に挑戦しています。また、別府市は、「国際観光温泉文化都市」として、さらなる発展が期待されている地域です。立命館アジア太平洋大学は、この別府市において、おだやかな海原を眼下におさめ、豊かな自然が息づく地・十文字原に設置されます。

自然環境・関係と景観と調和したキャンパスで、世界50ヵ国以上から集う学生が、知性と感性、友情と信頼を育み、巣立っていきます。



立命館アジア太平洋大学の理念と構想を アジアと世界の若者に伝えたい

～今夏、アジア太平洋12の国を訪問して～



学校法人立命館常務理事（教学担当）
立命館アジア太平洋大学副学長予定者

慈道裕治

みなさん、この夏はたいへんお世話になりました。私たちの訪問に対するみなさんの御厚意に、あらためて感謝するとともに、ここに取り組みをご報告いたします。

私たち立命館の教職員は、この夏、立命館アジア太平洋大学(日本国大分県別府市)の理念と構想を、世界各国・地域みなさんに広く理解していただくとともに、様々な協力・支援をお願いするために各国を訪問しました。

中国、韓国、台湾、マレーシア、インドネシア、タイ、シンガポール、フィリピン、ベトナム、オーストラリア、ニュージーランド、インドの12の国・地域、400以上の機関を訪問しました。訪問先は、国や地方の教育行政機関、大学、高校、教育関係の財団、研究機関、民間企業など教育や人材育成にかかわる多くの機関でした。

この訪問を通して、私たち

は、多くの方々から新しい大学の理念や構想に対して賛同していただくとともに、同時に多くの貴重な提案をいただくことができました。また、今回の協議を、具体的な協力や提携につい

ての今後の継続的な協議の出発点とすることについてもみなさまが賛同を得ることができましたことをありがたく思っております。とりわけ、私たちは次の点を重視し、今後の取り組みを進めていきたいと考えております。

第1に、直接に訪問し懇談することを通して、日本の大学制度や私たちの構想について率直なご意見をいただくことができましたが、またそのことによって、相互理解を深め今後の協力関係を築いていくための基礎を築くことができました。

第2に、今回の私たちの大きな目的の一つであった各国・地域からの学生の派遣について、100を越える高校をはじめとして、計150の国や地方の行政機関、教育機関、関係団体



各国訪問グループから

●中国

立命館アジア太平洋大学の理念と構想に対して、国や地方レベルの行政機関をはじめ、大学・高校などの教育機関まで、数多くの団体や人々から賛意を得ることができました。多くの訪問先で、「この大学と協定を結んで留学生の送り出しに協力したい」「附属高校との交流も検討したい」などの積極的な反応がありました。慣れない異郷の地で立命館アジア太平洋大学の理念が理解されたことはたいへん喜びです。

●韓国

日韓合併企業をはじめ30カ所を訪問しました。その

中には、立命館アジア太平洋大学開設のあかつきには「留学生推薦入学に関する協定書」を締結することで合意した企業もあります。その他の訪問先でこの合意が話題となり、いくつかの企業でも検討をいただくことになりました。「本当に夢と理想のあるお仕事ですね」という声をかけていただくことも一度や二度ではなく、ささやかながらでも日韓関係の平和的發展に貢献できることをあらためて知ることができました。

●マレーシア

マレーシアでは、多くの生徒が欧米諸国の大学へ進学しています。このような

かで、訪問したその場で協力を快諾して下さった校長先生もあり、大いに励まされる思いでした。マレーシア経済の発展がりは目を見張るものがあり、国旗が町中にたなびいていました。国旗は、マレーシア独立40周年を記念するシンボル、圧巻です。立命館アジア太平洋大学開設へ、新しい気概を持った日となりました。

●インドネシア

ジャカルタを中心に、高校、日本語学校、企業、官庁など34機関を訪問し、5機関から留学生派遣への協力表明を得ることができました。中でも高校の先生方は、

このような説明に日本の大学の教職員の訪問を受けたことは初めてと、熱心に立命館アジア太平洋大学の構想を聞いて下さいました。日本とインドネシアとの結びつきは、歴史的にも経済的にもたいへん深く、インドネシアからのたくさんの留学生を受け入れたいと実感しました。

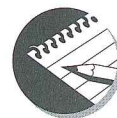
●タイ

高校側の日本に対する関心が高く、日本語を開講している高校も多く、そうした高校では生徒たちも将来の希望を語ってくれました。多数の先生から積極的に生徒に呼びかけてみるとの約束もいただきました。話題

は、立命館アジア太平洋大学が日本語だけでなく、英語でも受講できることや奨学金のことが中心でした。立命館あげて奨学金に努力し、日本で学びたいという生徒のために努力していく決意です。

●フィリピン

15大学・高等学校等、4企業、大使館、教育省など6機関を訪問し、暖かい歓迎を受けました。高等学校はいずれも日本留学に対する関心が高く、訪問前は日本留学にどの程度関心を持ってもらえるのか不安もありましたが、この考えはすっかり変わりました。フィリピンの高校生の日本留学の



RITSUMEIKAN APU TOPICS



等から協力の意向が示されたことです。

第3に、教育や研究上の交流についても、訪問した大学や研究機関などから積極的な意向が示され、各国との多様なネットワークがさらに広がった点です。

第4に、訪問した民間企業や団体などから、学生のインターンシップの受け入れや、奨学金制度への支援、将来の就職などにつながる協力の意志が表明されたことです。

そして、訪問した私たち自身が、立命館アジア太平洋大学への厚い期待や要望に接して、みなさんに支えられ、本当にアジア太平洋地域の平和と繁栄、共生に貢献できる大学づくりに邁進しなければならないことを痛感したことです。



私たち立命館の教職員は、今後さらに多くの国々・地域を訪問し、名実ともに国際的ネットワークに支えられた大学を創造していく決意です。

どうか、今後とも暖かいご協力や励まし、そして厳しいご意見をお願いいたします。



希望に応える大学の設立へ力を尽くしたいと気持ちを新たにしています。

● ベトナム

ベトナムでは、教育が国家事業であることから、政府も人材育成を重視しており、日本に対する信頼も厚く、優秀な留学生の派遣について、今後積極的に協力をやりたいとの賛同をいただきました。また、多くの学生にとって日本への留学は経済的に非常に厳しいため、奨学金などの就学援助を期待しているとの強い希望も出されました。

● オーストラリア、ニュージーランド

オーストラリア、ニュージー

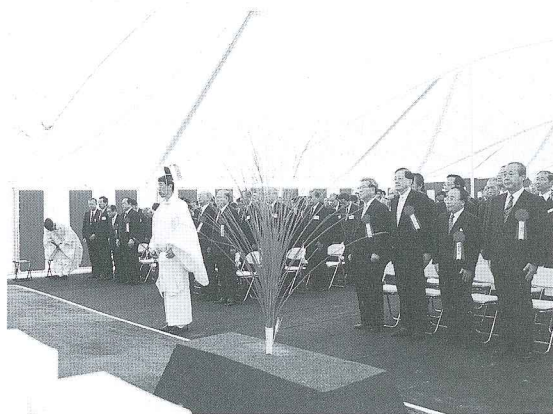
ランドとも、近年日本への関心が非常に高く、日本語教育には目を見張るものがあります。また、両国において外国語の中で一番人気があるのは日本語です。多くの高校であたたかい歓迎を受け、協力の意志表示をいただきました。また、ニュージーランドの教育財団からは、留学生の渡航費の援助を検討するとの約束が得られました。

● キャンパス起工式を挙行

祝 立命館アジア太平洋大学設置事業造成工事 起

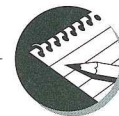


2000年4月、九州・大分県別府市に開学予定の立命館アジア太平洋大学設置事業造成工事起工式が、1997年10月18日（土）午前11時より、キャンパス建設地である別府市十字原で行われました。起工式には、設計管理の株式会社山下設計、施工の熊谷組・さとうベネック・安部組共同企業体、平松守彦大分県知事・井上信幸別府市長をはじめとする地元関係者、施主である本学からは大南正瑛総長、川本八郎理事長、坂本和一立命館アジア太平洋大学学長予定者等、総勢約200名が参加して盛大に開催されました。神事では、平松知事、井上市長、川本理事長が鍬入の儀を行い、事業の成功と工事の安全が祈願されました。また、直会では、施主を代表して大南総長が挨拶、「21世紀の大学のモデルの一つとなる大学にしていきます」と決意を表明しました。



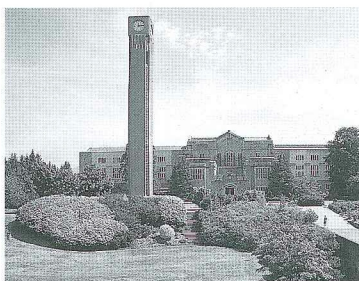
● 大分・別府事務所を設置

キャンパス造成工事をいよいよスタートさせたことや、地元での協力関係を強化するため、現地に1997年12月より「立命館大分・別府事務所」を設置しました。



カナダ

カナダ／プリティッシュ・コロンビア大学より 大南正瑛学長へ名誉博士号



1997年5月30日、カナダのプリティッシュ・コロンビア大学(UBC)の春季卒業式において、ストラングウェイUBC学長より、大南正瑛学長に名誉法学博士号が贈呈された。UBCと本学とは、1987年以降、海外セミナー、1年間の学生交換留学、1991年からの立命館・UBCジョイントプログラムなどにより、国際交流の先駆的役割を果たしてきている。この度、両大学の交流にリーダーシップを発揮し貢献したことを踏まえ、大南学長の研究者としての国際的な貢献、学長としての日本の高等教育や国際学術交流への多大な貢献に対して、上記の称号が贈られた。

フィリピン

大南正瑛総長、 フィリピン名誉領事に就任

Domingo L.Siason, Jr フィリピン共和国外務大臣より、大南正瑛総長に、フィリピン共和国名誉領事就任の要請があり、これを受託した。1997年3月10日、東京・渋谷のフィリピン共和国大使館において、Alfonso T.Yuchengco フィリピン共和国駐日大使の立ち会いのもと、受託の宣誓と署名が行われた。

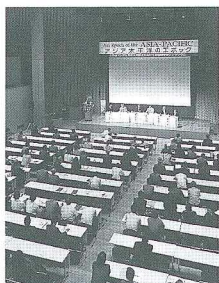


国際学術シンポジウム 「アジア太平洋のエポック」を開催



1997年6月21・22日両日にわたって、国際学術シンポジウム「アジア太平洋のエポック」を開催した。このシンポ

ジウムでは、教育界、経済界、マスコミ、地元など国内外の多方面から、合計で20名に及びパネリストを招き、立命館アジア太平洋大学がめざす、新たな教育・研究分野である「アジア太平洋学」の構築と21世紀の人材育成、この大学が果たすべき役割などについて、幅広い方面からの提言を受けた。



立命館ノーベル・フォーラム 「21世紀のアジアの科学における夢と希望」を開催



1997年5月15日、アジアのノーベル賞受賞者を招待して、立命館ノーベル・フォーラム「21世紀のアジアの科学に

おける夢と希望」を開催した。パネリストは、物理科学者の李遠哲 台湾中央研究院院長とフランスの生化学者ジャン・マリー・ルイ・パスツール 大学教授。李院長は、アジア経済の今後の発展の課題について述べ、マリー・ルイ教授は、ご自身の専門分野である超分子工学技術の将来展望について述べられた。基調講演を行った大南正瑛総長も交え、地球規模の視野での科学研究の必要性について、活発な意見交換が行われた。

立命館大学体育会ラグビー部、 韓国・慶熙大学と交流試合

1997年5月22日、本学体育会ラグビー部と韓国・慶熙大学ラグビー部との交流試合が行



われた。慶熙大学ラグビー部は、韓国の大学選手権2位(1997年春)という強豪で、対戦は2試合行われたがいずれも慶熙大学が勝利。本学も先制トライを奪うなど奮闘を見せたが、後半逆転された。本学と慶熙大学とは、これまでサッカー、バスケットボールの交流試合や伝統芸能の公演交流などを行っている。

立命館大学中国研究会、 中国・北京大学日本語倶楽部と学術交流

本学の学術系サークル・中国研究会は、1997年2月18日から9日間、中国を訪問し、北京大学日本語倶楽部との研究交流を行った。中国研究会は現在約40名の学生が所属し、漢詩、中国語会話、中国社会などについて研究しているが、「机上の議



論だけでなく、実際の中国を肌で感じ研究を追求する」ことを目的として、今回の交流を実現。

本学卒業生・千葉真子選手、 アテネ世界陸上大会で銅メダル獲得

1997年8月5日、ギリシャ・アテネで開催された第6回世界陸上選手権の女子10000mにおいて、日本のエースに成長した立命館宇治高等学校卒業生の千葉真子選手(旭化成所属)は、世界の強豪を相手に見事3位に入賞し、銅メダルを獲得した。五輪、世界選手権のトラック種目で日本の女子選手がメダルを獲得したのは1928年アムステルダム五輪以来、実に69年ぶりの快挙となった。

世界のアドバイザー・コミッティ・メンバー

立命館アジア太平洋大学設立の趣旨に賛同し、様々なかたちでご支援・ご協力やご助言をいただく「立命館アジア太平洋大学アドバイザー・コミッティ」には、世界各国の元首をはじめ、各国の駐日大使や日本・アジア太平洋地域の経済人や文化人など多くの方々にご就任いただいております。

名誉委員



シャンカル・ダヤル・シャルマ
前インド大統領



スハルト
インドネシア大統領



Dr.マハティール・ビン・モハマッド
マレーシア国首相



アンドレアス・ファン・アフト
元オランダ王国首相



アルベルト フジモリ F.
ペルー共和国大統領



フィデル・V・ラモス
フィリピン共和国大統領



バンハーン・シラパーサー
元タイ王国首相

アンバサダー・メンバー



ホセ・ラモン・サンチス・ムニョス
駐日アルゼンチン共和国特命全権大使



アシュトン・カルバート
駐日オーストラリア特命全権大使



ウイスバー・ルイス
駐日インドネシア共和国特命全権大使



トゥロンメアリ
駐日カンボディア王国特命全権大使



金 太智
駐日大韓民国特命全権大使



トンサイ・ボーディザン
駐日ラオス人民民主共和国特命全権大使



マヌエル・ウリベ
駐日メキシコ合衆国特命全権大使



ウ・ソウ・ウイン
駐日ミャンマー連邦特命全権大使



マーティン・ウィーヴァーズ
駐日ニュージーランド国特命全権大使



アイワ・オルミ
駐日パプア・ニューギニア特命全権大使



ビクトル・アリティ
駐日ペルー共和国特命全権大使



アルフォンソ T・ユージェンコ
駐日フィリピン共和国特命全権大使



シャワッツ・アッタユック
駐日タイ王国特命全権大使



ゲン・クオク・ズン
駐日ベトナム社会主義共和国特命全権大使

代表世話人

樋口廣太郎 アサヒビール株式会社代表取締役会長 / (社) 経済団体連合会副会長

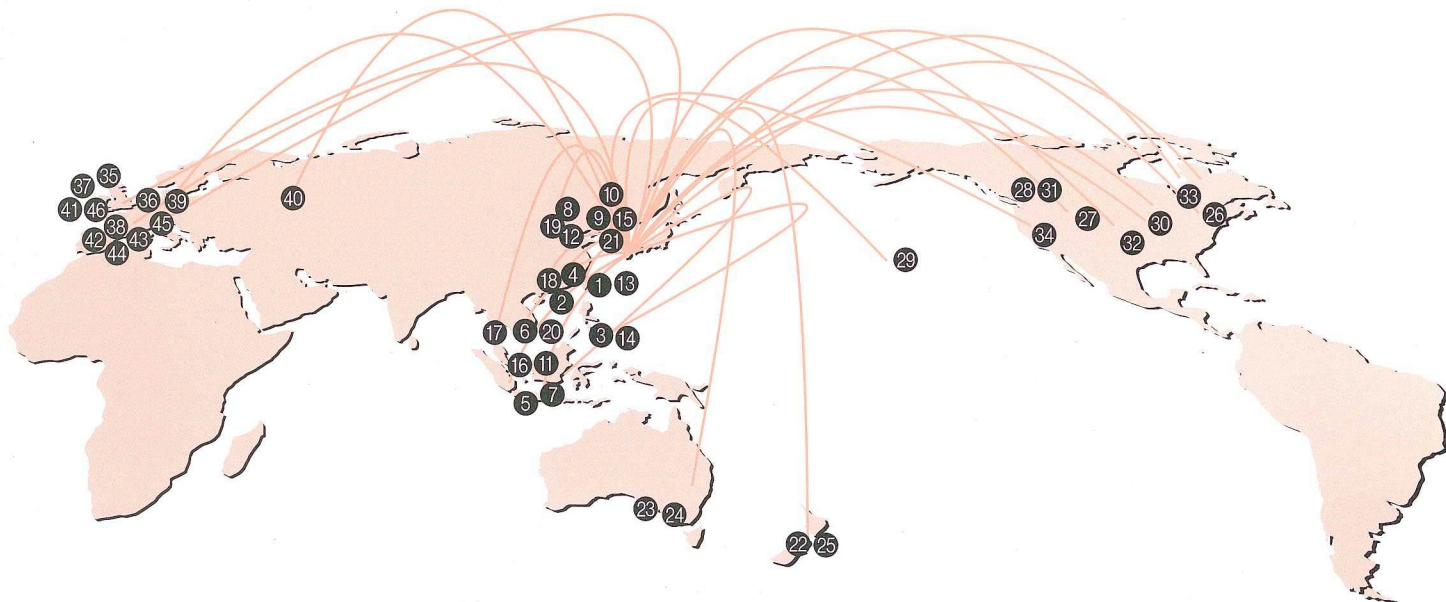
平松守彦 大分県知事

大南正瑛 学校法人立命館総長

この他、1997年11月1日現在で、各界から180名の名士の方々に、アドバイザー・コミッティにご就任いただいております。

世界18カ国46大学・研究機関と結ぶ 立命館国際学術ネットワーク

本学は、グローバル化の時代における教育と研究の創造をめざして、アジア太平洋地域をはじめ世界の大学・研究機関と国際的なネットワークをつくっています。立命館アジア太平洋大学が、世界的なネットワークに支えられ、アジア太平洋地域の持続的・平和的發展と共生を進める、アジア太平洋研究に関する「センター・オブ・エクセレンス」となることをめざしています。現在、立命館は、世界18カ国・地域46大学・研究機関と協力・協定の関係を結んでいます。



【アジア】

- ① 中央研究院 [台北]
- ② 香港中文大学 [香港]
- ③ デ・ラ・サル大学 [マニラ]
- ④ 華東師範大学 [上海]
- ⑤ ガジャマタ大学 [ジョグジャカルタ]
- ⑥ ハノイ工科大学 [ハノイ]
- ⑦ インドネシア大学 [ジャカルタ]
- ⑧ 吉林大学 [長春]
- ⑨ 高麗大学 [ソウル]
- ⑩ 慶熙大学 [ソウル]
- ⑪ マラヤ大学 [クアラルンプール]
- ⑫ 南開大学 [天津]
- ⑬ 国立台湾師範大学 [台北]
- ⑭ フィリピン国立大学 [ケソン]
- ⑮ ソウル大学 [ソウル]
- ⑯ マレーシア戦略国際問題研究所 [クアラルンプール]

- ⑰ タマサート大学 [バンコク]
- ⑱ 同済大学 [上海]
- ⑲ 清華大学 [北京]
- ⑳ ハノイ国家大学 [ハノイ]
- ㉑ 延世大学 [ソウル]

【オセアニア】

- ㉒ アジア2000年財団 [ウエリントン]
- ㉓ マコーリー大学 [シドニー]
- ㉔ メルボルン大学 [メルボルン]
- ㉕ ヴィクトリア大学 [ウエリントン]

【南北アメリカ】

- ㉖ アメリカン大学 [ワシントン, DC]
- ㉗ APSIA
(Association of Professional Schools of International Affairs)
- ㉘ プリティッシュ・コロンビア大学 [バンクーバー]
- ㉙ ハワイ大学 [ホノルル]
- ㉚ イリノイ・カレッジ [ジャクソンビル]

- ㉛ オカナガン・ユニバーシティ・カレッジ [ケローナ]
- ㉜ オクラホマ大学 [ノーマン]
- ㉝ ピッツバーグ大学 [ピッツバーグ]
- ㉞ 南カリフォルニア大学 [ロサンゼルス]

【ヨーロッパ】

- ㉟ エジンバラ大学 [エジンバラ]
- ㊱ ベルリン・フンボルト大学 [ベルリン]
- ㊲ ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ [ロンドン]
- ㊳ パリ第一大学 [パリ]
- ㊴ ポーランド科学アカデミー社会科学部 [ワルシャワ]
- ㊵ ロシア科学アカデミー東洋学研究所 [モスクワ]
- ㊶ サセックス大学 [ブライトン]
- ㊷ トゥールーズ・ル・ミラージュ大学 [トゥールーズ]
- ㊸ トゥールーズ第一社会科学大学 [トゥールーズ]
- ㊹ トゥール商業大学 [トゥール]
- ㊺ チュービンゲン大学 [チュービンゲン]
- ㊻ ウォーリック大学 [コベントリー]

(アルファベット順)

このニュースレターは、アジア太平洋地域の未来を担う若い世代に、私たち立命館の理念と「立命館アジア太平洋大学」の構想を知っていただこうと、発行するものです。

立命館は、2000年に創立100周年を迎えます。これを記念し、来るべき21世紀社会の要請に応えるべく、「自由と清新」の建学の精神と「平和と民主主義」の教学理念を指針として、「立命館アジア太平洋大学」の創設に取り組んでいます。この大学は、このニュースレターですでに紹介しているように、「アジア立」ともいえる新しい国際的な大学として構想しています。このニュースレターを通じて「立命館アジア太平洋大学」の理念と構想を知っていただくと同時に、この構想への意見もお寄せいただければ幸いです。アジア太平洋地域のより多くの方々からのご意見によって、より一層、「立命館アジア太平洋大学」を充実したものと開学するように、今後ますます力を尽くしたいと考えています。

URL <http://www.ritsumei.ac.jp/kic/a31/>